

会議名	平成 29 年度 第 2 回西尾市子ども読書推進委員会
日 時	平成 29 年 11 月 7 日 (火) 10:30~11:30
場 所	西尾市役所 41 会議室
出席者 【敬称略】	委員長 尾崎 隆爾 委員 木下直人、山崎章雄、颯田義晴、島崎広高、 森木かよ子、磯貝真澄、杉浦千代子、今井聡子 事務局 原田 依子、生田 美恵
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・委員会次第 ・西尾市子ども読書活動推進計画（第 2 次）進捗状況 ・西尾市子ども読書活動推進計画（第 3 次） ・西尾市立図書館 子ども読書のページコピー ・図書館利用ノート配布方法

委員会の中で出されたことは以下のとおり。

1 あいさつ

尾崎委員長あいさつ

秋の読書週間のキャッチフレーズ『本に恋する季節』である。11月3日が文化の日でありその前後が読書週間となっている。読書週間は、戦後に読書の力によって平和国家をつくるということで推進された。第三次が策定され10月から始まった。自分の部門だけでなく、他の部門についても協力し合って進めていくことが大切であると思う。

2 議題

(1) 西尾市子ども読書活動推進計画の進捗状況について

事務局（説明） 第 2 次評価について（資料 1） 西尾市子ども読書活動推進計画（第 2 次）の施行体制とその達成度について説明

平成 24 年の 10 月から平成 29 年 9 月までを期間とし、この読書推進会議で進捗状況（実績値）をお聞きしています。その毎年の数値を表にまとめてあり、目標に対しての評価をしたものです。評価については、明確な基準はありませんが、◎は達成、○はほぼ達成、△はまだまだ、×は未実施で評価した。×未実施であったものを説明。基本方針 1 では 4 項目、基本方針 2 は 4 項目 基本方針 3 は 1 項目 基本方針 4 は 1 項目であった。4 月に実施した、第 1 回会議の折にご説明させていただきましたが、第三次を策定するにあたり、見直しを加え計画に反映したものの。あるいは、もともと目標数値の設定が分かりにくい、曖昧であったり、適当ではないものは、基本数値の見直しや、具体策の表現の見直しをしました。

委員（意見） 地域における子ども読書について、鶴城ふれあいセンターには子どもが集まっているのでそういうところに本を置いたらどうか。

事務局（回答） 現在は、鶴城ふれあいセンターには本がおいてない。ふれあいセンターの現状把握と配置を相談してみる。

委員（意見） なかなか家庭などで文庫を開いて開放するなどの子ども文庫は難しい時代になっている。今の子供の状況や行動を把握して行う必要がある。

事務局（説明） 第3次目標について（資料2） 西尾市子ども読書活動推進計画（第3次）の施行体制とその達成度について説明

資料2は第三次計画の目標及び達成度に関係課を記載したものです。全体的な意識をもって事業を推進する計画であるため、計画書には、関係課の記載はあえて省いた経緯があります。しかし、進捗状況（実績）は担当課が意識していないと把握できないので記載しました。今後の進捗状況の調査では、この表で実施していく。

委員長 各課の平成29年度に入ってから、進捗状況について発表をお願いしたい。

委員（説明） 図書館から発表します。特に取り組んでいる項目について説明する。親子読書ノートについて説明 年度の初めにすべての保育園幼稚園の年少児1391冊、また、希望する幼稚園保育園の年中・年長・未満児1142冊に配布した。読書環境の整備については、重点項目「より子どもの身近なところへ本を置く」については、杉浦委員さんの言われるように考えていきたい。新規の施策では、「本のある環境をつくる・家庭に本を置くスペースを作る」では、10月の本まつりに開催した『本の箱を作ろう』講座は人気があった。これからも続けて開催していく予定。「子ども読書の推進と啓発」では、特に23日の「読書の日の啓発」に力を入れている。アンケートでは『読書の日』を知っている割合は9.9%であったので、周知度を高めるため、クリアファイル、のぼり旗、職員のポロシャツで周知を図っている。「中高生向け図書を充実する」は今年度の図書購入の選書で充実していく。「子ども読書活動推進のための理解や情報の共有化」では、行事の情報をホームページで公表する。（その他議題で説明）

委員（説明） 学校教育課では、「読書タイムを設定する」は、ほとんどの学校ができています。また、「人的配置」として、学校司書及び司書教諭の配置は今後も継続していく。「母語が日本語でない資料の割合」は、対象児童がいる学校か否か、母語の種類の数など、学校差が大きいので、図書費が追いつかない面がある。

委員（説明） 学校は、図書館部会で図書館利用ノートの活用を図って行きたい。

委員（説明） 保育園 子育て支援 児童クラブは市内全域に配置があり、支援員がよみきかせを行うようにしていきたい。検討事項として、図書館から配本をしてもらっている児童クラブの図書の冊数だが、平成27年度から通う児童が、1年から6年生までに変わったので、できれば、配本冊数を増やしてほしい。

委員（説明） 生涯学習課としては、地域で開催するイベントでの実施回数では、目標の達成度が施設により差がある。寺子屋などでも読み聞かせを行えると良いと思う。別件であるが、平成29年からの配本所の図書館業務では、夜間管理がシルバーに変わり、システム操作に苦慮している部分があるが、図書館と連携をとり推進していきたい。

委員（説明） 子ども課は、保育活動の中で読み聞かせを推進していきます。2次では数値が低かった。これまでも保育活動の中で実施してはいるのだが、今年度からは特に、週案や月案に意識的に組み込んで実施していくことを目標としている。

委員（説明） 健康課、ブックスタートのこれまでの目標値は受診率であったが、個人情報の問題もあり、未受診者には、図書館としては配布ができないので、実施率としては100%でよいと思う。

他の健診での絵本リスト配布や本の配置もありがたい。

事務局（意見） 学校の取組みの中で、「母語が日本語ではない…」については、策定委員会の中でも検討課題となっていた事項で、図書館で外国語の本の購入をすすめていくので、その本を活

用してはどうかということ考えている。

委員（意見） 親子読書ノートの利用状況を知りたい。

事務局（回答） 目標冊数を達成し、図書館に持ってきてくれた人の実績は60人であるが、プレゼントを目指してとにかく記録するのではなく、本を読んだ感想などの記録することなども楽しみとしていただきたい。

委員（意見） 小さい子どもは同じ本ばかり読む子もあり、親子読書ノートに書いてあるものは読んだんだな、と、信じてあげることで良いと思う。

委員（意見） 親が本に触れていると、自然に子どもも読むようになると思う。親がデジタルばかりに触れて、子守りのため子どもにデジタルを与えている。親のやるように子どももやる。

委員（意見） おやこ読書ノートの表紙にかいてある「4月23日は西尾市子ども読書の日」を「毎月23日は読書の日」に変えてはどうか。

事務局（回答） 気がつかなかった。次年度から変えて行きたいと思う。

(2) その他

事務局（説明） (1) 図書館利用ノートの配布方法について

図書館利用ノートは、「教師用」「児童用」の2種類あり、図書館で印刷製本して、図書館や学校図書館のしくみやマナーを学ぶ、図鑑や辞典の利用方法を学ぶことを目的として、H29年度は児童用1,854冊教師用216冊作成配布した。

利用状況について、アンケート調査をした。結果から①26校中21校、延べですが、ほぼ全内容が使われた。②巻末に指導計画の案が載せてあるので有効に使える。③3年生からでなく1年生でも使えるので、先生がこのノートの存在を知っていただくことが必要。今後について、印刷製本しての配布でなく、部分的に使用できる内容でもあるため、全学年の教師用（クラス数）のみの印刷製本としたい。児童用は、教育委員会サーバーにデータ保管し使用していく方法としたい。

委員（意見） 今後、学習指導要領も変わっていくので改正が必要となる。また、単元で教科書にも載っているなので、その補足として必要な部分をダウンロードして使用していく方法がいいと思う。

事務局（説明） (2) 図書館ホームページ・子ども読書のページについて

図書館のトップページから子ども読書のページに入りにくいので、ホームページを見ていただけていないので、トップページにバナーを作り、多くの方に見ていただきたい。現在バナー作成中である。また、第3次計画にあるよう、ホームページで情報の共有を図れるようにするには、大規模な改修が必要となる。改修経費が必要になるので、次年度のシステム改修時に実施したい。また、データ容量が大きくなり過ぎないように体制にしたいので、次年度システム改修時に相談させていただく。

委員長（意見） いろいろな施策を行う場合でもそうだが、過剰でも不足でもいけない。であるから、本好きな方もあればそうでない人もいる。どちらの立場も尊重して事業をすすめていくとよいと思う。

委員（意見） 担当課だけでは見えない部分があるので連携協力しながら事業を進めたい。
委員長により平成29年度第2回子ども読書推進委員会を閉会した。